祈りの集い　9月23日　　**『今、喜びの道を歩きだそう！』**

伊従　信子 ndv

Ⅰ　アビラの聖テレサ生誕５００年の「終わり　と　これから」

１）「霊的な人々の母」テレサ：「霊的な人々＝神を捜し求める人々」

２）５００年の時間の流れ：生ける水、命の水に生かされて：

テレサ、十字架の聖ヨハネ――＞テレーズ――＞三位一体のエリザベト――＞

エディット・シュタイン――＞マリー・エウジェンヌ神父（ＭＥ）

Ⅱ　キリスト者として生きるヒントをマリー・エウジェンヌ神父に探る

１）マリー・エウジェンヌ神父の使命：「交わりの証し人」

①　「人々を神へ導く使命」の確信：「霊的な人々の母」テレサ

共通点：神に向かう内的志向：沈黙の祈り――＞神との一致（第７の住居、愛の山頂）

②　キリストと共に、愛を極みまで生きた証人（尊者マリー・エウジェンヌ神父）

③　テレーズの良き理解者（９年間の隠遁生活、宣教者の保護聖人、「現代のための“神の言葉”」レオ１３世

２）マリー・エウジェンヌ神父のメッセージ・強調点

①「神の似姿に創られた人間」の尊厳と美しさ＝神秘：「お前はわたしの目に尊い」

＊一人ひとりを捜す神の愛（私を捜すその方を私のうちに見出しました）

＊神の愛に応える人間：神と人、私と神、人と人の交流：縦と横の関わり・交わり

祈り＝「私を愛してくださるその方との愛の語らい」テレサ

＝「わたしの愛と神の愛で出会う時、ただちに交流がある、それが念祷」ＭＥ

＊　沈黙の祈りのうちに神の慈しみの愛の「証し人」となる　@テレーズの使徒的活動

＊　修道院の壁をはるかに超えて神と親しく生きる祈りの道

②　洗礼の恵み　「父と子と聖霊のみ名によって・・神の子となる」三位一体の命

＊　からしだね：ポプラの種は成長すればポプラの樹となる

＊　洗礼を受けたすべての人が「愛を極みまで」生きるよう呼ばれている。

③　日常生活の大切さ：日々の単調な、平凡な日常生活で神との親しさを生きる

＊　ガリラヤ湖畔（弟子たちの日常）でイエスは呼ばれた（祈りと使徒的働きに）

④　信仰のまなざし（感じることでなく）の重要性　@『いのりの道』『祈りの道を行く』

聖母の騎士さｈ、聖母文庫

＊　祈りにおいても、生活においてもこのまなざしを忠実に神に向け続ける。

祈りの中での愛の交わり（信仰による）は私を**「交わりの証人」**として鍛える。

終わりに

私の日々の生活を「**聖なる巡礼**」とする＝人々と共に神を捜し求める巡礼（聖ヨハネ・パウロ２世）

教会と今日の世界を巡る旅をはじめましょう。人生は山あり、谷あり、尾根あり≠平坦な道

不確実な時代に歴史を通じて主が繰り代えされる言葉を信じて希望する：

「恐れるな、わたしがあなたと共にいて必ず救い出す」（エレミヤ1・8）

「私は代の終わりまで、いつもあなた方と共にいる。」イエスの言葉（マタ２８・２０）

信頼と希望を「私たちと共に歩むと約束された」**主に置く**。

≠自分の計画、可能性のうちに：数や能力に惑わされない、自分の力を過信しない

――＞　**「喜びの道」**

「今、喜びの道を　歩きだしましょう！」：神に基をおく（信仰）喜び＝福音的喜び

福音を生きる＝**「キリストに従う喜びと美しさが透けて見える生き方」**